

『私のお母さんは調理員』

福岡県福岡市立野多目小学校 四年一組 女子 岩本 悠奈

私のお母さんは、調理員です。お母さんは、私が一年生の時に、調理員を始めました。なので、私は給食当番が楽しくなったり、給食の事に、きょうみを持ちました。

給食を作るには、いろんなきまりがあるそうです。例えば、いろんな作業によって、エプロンがちがうし、トイレに行く時は、全部ぬがないといけないし、食中毒を出さないように、家でもしっかりと手洗いを日によって、100回近く洗う事もあるそうです。お母さんは、

「アライグマよりも洗うよ。」

と言っています。加熱した食材の温度を、85度以上上げて、ノロウイルスを退治しないとけないし、冬は、骨がなるぐらい寒くて、夏は、滝のようにあせが出るぐらい暑くて、全身あせもになるそうです。

私は、この事をたいへんだと思うけれど、衛生管理のために、必要な事なんだそうです。食器は、手洗いで一まい一まい洗っているそうです。私が、食器を返す時に、ごはんつぶがついている食器があります。私はそれを見て、食器を洗う人も大変だし、農家の人にも失礼だと思います。なので、私はもう少しちゃんと食べてあげればいいのと思います。

トマトなど、一人何か決まっている物は、とても大変なんだそうです。少しでも分らなくなると、最初からやり直さないといけないので、しんけんによらないといけない事だと、思いました。切り方やいため方一つで、野菜の水分の出方がかわり、同じメニューでも、少し味が変わる事もあるそうです。大量の玉ねぎを切る時、涙が出てくるそうです。玉ねぎ一こでも目がいたくなるのに、何十こも切ると、どれだけ目がいたいのか、涙が出るのか、想像も付きません。

給食を作るには、手際よくしないとイケません。限られた時間で調理を行なわなければいけないので、忙しい時こそ声かけかくにんし合い良いチームワークで、楽しく給食が出来あがるそうです。お母さんはいつも、

「どんな仕事でも、楽しまんともつたないよ!!」
と言っています。

お母さんが小学校の調理員だからこそ、今日何の係をしたのか、明日は何の係をしたのか聞いて会話の時間がふえます。それに、お母さんが作った給食と、私が給食当番でついで給食が同じだったら、もっと話す事がふえて、とっとうれしいです。おかわりをしたいのに出来なかった物を作ってくれると、

「ヤッター」と思います。私はお母さんが調理員で良かったと思います。

野多目小学校の調理員さんもお母さんと、同じ気持ちでみんなに安全でおいしい給食を、作っているんだと思います。

おなかもちいっぱいになる給食を、感謝していただきますと思います。